

## 2 飢餓をゼロに



### ◆ ゴール2 ◆

## きが 飢餓をゼロに

### 世界の主な目標

- 飢餓を終わらせ、すべての人々が食料を十分に得られるようにし、あらゆる形態の栄養不良を解消し、持続可能な農業を進めます。

### 日本の状況

- 2018年度のカロリーベースの食料自給率は37%であり<sup>注1</sup>、食料の確保は身近な課題です。



### 名古屋市の取り組み例

れい  
チェック  
だん!

- 食育に関する啓発を行っているよ。
- 家庭環境に恵まれない子どもや適切な養育が受けられない子どもへの支援を行っているよ。

注1: 農林水産省「平成30年度食料自給率・食料自給力指標について」より。  
注2: 国連食糧農業機関(FAO)ほか「世界の食料安全保障と栄養の現状2018」より。

## マンガで学ぶSDGs



## 2 飢餓をゼロに



### どんな目標？

- 飢餓をなくして十分な栄養や食料を得られるようする
  - 持続可能な農業で食料を生産する
- 考えるためのキーワード
- 食料自給率 ● 農業従事者の減少
  - 農業問題



## 食料自給率

### Q: 日本の食料自給率はどれくらいなの？

A: 日本は食が多様で豊かな国ですが、多くの食料を諸外国からの輸入に頼っており、食料自給率は約37%と先進諸国の中では最低水準です。世界人口の増加や気候変動の影響、新興国の経済成長などで食料の需給がひっ迫すれば、日本が将来も安定的に十分な食料を輸入できるとは限りません。国内の生産者を守り、国の安全保障の観点からも、食料自給率を高めていくことが重要です。

### Q: わたしたちにはどう関係しているの？

A: 代表的な日本食であるうどんなどをつくるための小麦粉も8割以上を輸入に頼っています。また、牛肉は1年間で約60万トンを輸入しています。わたしたちが毎日食べている食料は、諸外国の自然や資源を使って生産され、日本への輸送などにも多くのエネルギーを消費しています。なるべく国産の農産物や魚介類を食べることで、食料自給率の向上や環境負荷の低減に貢献していくことが大切です。



小麦の輸入  
依存度  
**80%以上**

## 農業問題

### Q: 農家の人が減っていると聞いたけど？

A: 日本の安全・安心な食卓を支えている農業に従事する人が年々減り続けています。全国ではこの20年の間に約200万人、愛知県でも約6万人が減少しました。農家の高齢化や後継者不足などで、農業に携わる人は今後も少なくなっていくことが心配されています。一方、効率的で付加価値の高い農業生産を目指す若手農家や企業の参入の動きもあり、全国で地域の強みや特色を生かした持続可能な農業への挑戦が続いているです。



愛知県農家  
平均年齢  
**65.8歳**

### Q: わたしたちにはどう関係しているの？

A: 農業に従事する人が減れば、国内の農業生産が衰退して、ますます食料自給率が低下してしまうかもしれません。また、日本の農山漁村には豊かな自然環境や田園風景、風習や祭りなどの貴重な自然や伝統文化がありますが、農業の衰退とともにこれらも消滅することが心配されています。



- 地元でつくったもの、食べられるものを探してみよう
- わたしたちの食生活を確認してみよう



### 目標2 愛知 SDGsアクション いいともあいち推進店

消費者と生産者が一緒にになって愛知県の農林水産業を支えていこうという「いいともあいち運動」。この中で県産農林水産物の販売や利用に力を入れている店舗を「いいともあいち推進店」として登録しています。ぜひホームページを確認して出掛けみてください。

●ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/nousei/iitomo/iitomoaichi/> (いいともあいち情報広場HP)

